



© 2020映画「被爆ピアノ」製作委員会

鶴岡生協設立70周年 つるおか・たがわ九条の会結成20周年記念合同企画

おかあさんの 被爆ピアノ

上映日時: 10月21日(火)

午後の部: 午後2時~ (開場30分前)

夜の部: 午後6時~ (開場30分前)

会場: 鶴岡荘銀タクト小ホール

鑑賞券: 大人1,000円 (高校生以下無料)

【前売り鑑賞券取り扱い】生協くらしのセンター各店舗 サービスカウンター・鶴岡生協組織部・他

被爆しても
ピアノの音色は
変わらなかつたのです

佐野史郎 | 武藤十夢

(元AKB48)

監督・脚本 五藤利弘

(上映時間: 1時間53分)

おかあさんの被爆ピアノ



Introduction

昭和20年8月6日8時15分…

広島に投下された一発の原子爆弾。

街と共に一瞬にして消えたたくさんの命。

そうした壊滅的な状況の中で

奇跡的に焼け残ったピアノ。被爆ピアノ…

それを託された広島の調律師・矢川光則さんは、

修理・調律、自ら4トントラックを運転して

全国に被爆ピアノの音色を届けて回ることに。

「80年経って被爆体験者は段々いなくなっていて、あと10年したら殆どいなくなる。けれど、被爆ピアノは、その音色でずっと原爆のことを伝えていくことが出来る」と矢川さん。

被爆から80年を迎える今、

ピアノの音色で被爆の記憶を伝えていきます。



「世代を超えて伝えられるメッセージと調べ。

忘れてはいけない大切な想い。

沢山の若者たちに観てもらいたい、
心が優しくそして強くなる映画だ。」
クラーク記念国際高等学校 校長
三浦雄一郎

被爆から80年

蘇った音色が語りかける



昭和20年8月6日に広島で被爆したピアノを持ち主から託された調律師・矢川光則(佐野史郎)。彼自身も被爆二世。

爆心地から3キロ以内で被爆したピアノは被爆ピアノと呼ばれる。

矢川は、現在数台の被爆ピアノを託され修理、調律して、それを自ら運転する4トントラックに載せて全国を回っている。

東京で生まれた江口菜々子(武藤十夢)は大学で幼児教育を学び幼稚園教師を目指しているものの将来について漠然としている。

被爆ピアノの一台を母・久美子(森口瑠子)が寄贈していたことを知った菜々子は、被爆ピアノコンサートに行き、矢川と出会う。矢川を通して被爆ピアノ、広島のことを考えるようになり、祖母のことを知るうちに自身のルーツ探しをしていく。

母・久美子はどうして広島から出て行ったのか?

祖母・千恵子が菜々子に伝えたかったこととは?

調律師・矢川がなぜ被爆ピアノを伝える活動をしているのか?

菜々子はルーツを辿り、被爆ピアノの活動を辿りながら次第に何かを見つけていく…。

Story



戦後80年目。被爆から80年。自分を含めて今社会を担っている大人たちの殆どが戦後生まれになっています。戦争を知らない僕らは平和を当たり前のように享受してきました。しかし、当たり前だと思っていた平和は当たり前ではないことをここ数年の世界情勢の不安、国内で度重なり起こる災害などから強く感じるようになりました。今更ながら平和をとずっと維持しようと思い続けていないと平和ではなくなってしまうのではないかと思うようになっていました。そのためには僕らが後進の若い人たちに語り継がなくてはいけないと強く思うようになりました。そのきっかけは11年前に被爆ピアノのドキュメンタリー番組をつくりさせて頂いたことです。取材をさせて頂くうちに原爆が落とされたことや平和について考えるきっかけになるような映画をつくりたいと思いました。忘れないこと、記憶し続けること、そして伝えていくこと、そうしたことを思い起こして頂くような映画になっていましたから本望です。(監督 五藤利弘)



主催: 映画「おかあさんの被爆ピアノ」上映実行委員会 鶴岡生協 ☎0235(22)5111

後援: 鶴岡市・鶴岡市教育委員会・庄内まちづくり協同組合「虹」・鶴岡市民主商工会・庄内農業農民運動連合会
つるおか被爆者の会・原水爆禁止田川地区協議会・原水爆禁止鶴岡田川地区会議